

第185回 取引先企業景気動向調査

2024年 4 - 6 月 実 績

2024年 7 - 9 月 見通し

 瀬戸信用金庫

総合企画部

< 調査の概要 >

- 調査期間 2024年4～6月を対象に6月上旬に実施
- 調査対象先 302社
- 調査対象地域 瀬戸・尾張旭地区および名古屋地区
- 分析方法 「増加したとする企業割合」と「減少したとする企業割合」の差（DI）を中心に分析した
 ※DIとは、業況を判断するための指数で、＜良い（やや良い）と答えた割合＞から＜悪い（やや悪い）と答えた割合＞を引いた数値で、どちらの割合が多いかを比べて業況がどの方向に向きつつあるかの判断を指数化したもの

●調査企業の業種構成

《瀬戸・尾張旭地区》

企業数 (社)	陶磁器製造業						珪砂 製造業	建築・土木・ 生コン製造業	螺子 製造業	和飲食器 卸売業	電設資材 卸売業	合計
	ノベルティ	洋飲食器	タイル	電磁器	ファインセラミックス	和飲食器						
	15	7	7	22	13	21	10	19	17	20	17	168

《名古屋地区》

企業数 (社)	製造業			卸売業			建設業	合計
	繊維製品	機械・部品	紙加工品	鋼材・伸銅品	建築材料	家具・文具		
	11	37	15	20	14	7	30	134

●天気図の見方

好調 ←  → 低調

景気動向は、1971年（昭和46年）から調査を開始し、現在の調査方法は2006年（第112回 1～3月期）より開始しております。

■ 瀬戸・尾張旭地区 【業種別の業況天気図】

業 種	2022年 6月	9月	12月	2023年 3月	6月	9月	12月	2024年 3月	6月	見通し 9月
陶磁器製造業	ノベルティ 0.0									
	洋飲食器 0.0									
	タイル ▲16.7									
	電磁器 ▲28.6									
	ファイン セラミックス 7.7									
	和飲食器 ▲19.0									
陶磁器製造業合計	▲11.8	▲4.7	▲6.9	▲17.2	▲12.5	▲14.0	▲8.2	▲7.1	▲14.1	▲14.1
珪砂製造業	▲22.2									
建築・土木・ 生コン製造業	▲21.1				0.0				▲21.1	
螺子製造業	▲41.2				▲23.5				0.0	
和飲食器卸売業	▲14.3				9.5				▲10.0	
電設資材卸売業	▲26.3				22.2				▲5.9	

■ 名古屋地区 【業種別の業況天気図】

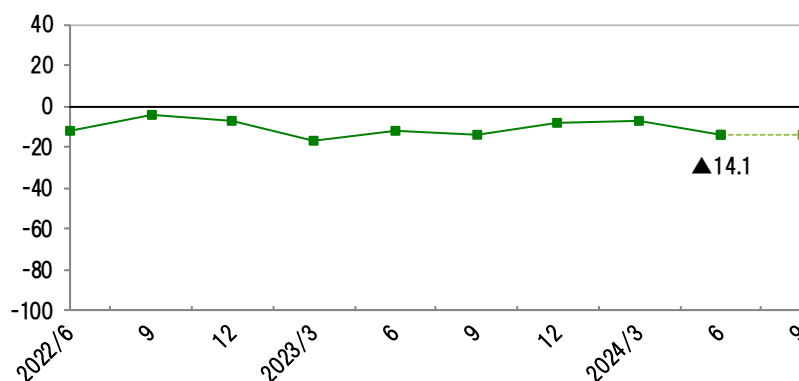
業 種	2022年 6月	9月	12月	2023年 3月	6月	9月	12月	2024年 3月	6月	見通し 9月
繊維製品製造業	▲36.4				▲9.1		▲9.1		▲9.1	
機械部品製造業	0.0				5.4		▲5.4		▲18.9	
紙加工品製造業	▲13.3				▲14.3		▲7.7		▲26.7	
鋼材・伸銅品卸売業	0.0				0.0		▲15.0		▲20.0	
建築材料卸売業	7.1				▲14.3		7.1		▲7.1	
家具・文具卸売業	▲12.5				▲12.5		0.0		▲14.3	
建設業	▲20.7				0.0		10.0		▲13.3	

■ 瀬戸・尾張旭地区

＜ 陶磁器製造業 ＞

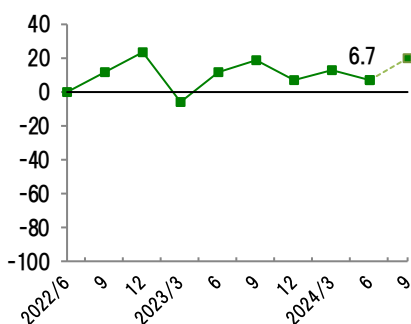
業種	2024 年 4-6 月（今回）業況	2024 年 7-9 月の見通し
陶磁器製造業 全体	3 業種において悪化の動きが見られたことから、全体の業況感も落ち込み、前回調査に続きマイナス圏で推移した。	同水準の見通し
ノベルティ	後退傾向ながら、前回調査に続きプラス圏で推移	改善見通し
洋飲食器	マイナス圏で横ばい推移	悪化見通し
タイル	悪化傾向、マイナス圏に落ち込み	悪化見通し
電磁器	悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移	悪化見通し
ファインセラミックス	マイナス圏で横ばい推移	改善見通し
和飲食器	マイナス圏で横ばい推移	同水準の見通し

業況DIの推移 [陶磁器製造業]

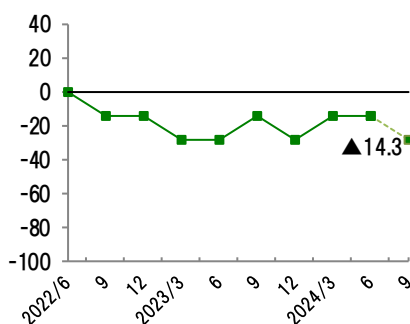


＜ 陶磁器製造業の業種別 DI ＞

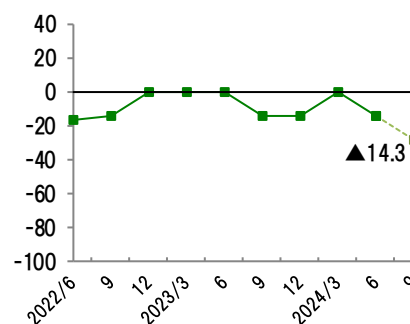
業況DIの推移 [ノベルティ]



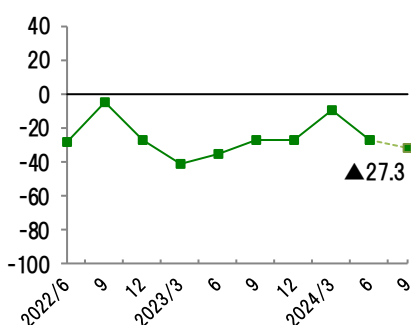
業況DIの推移 [洋飲食器]



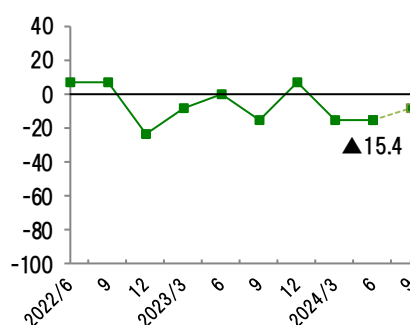
業況DIの推移 [タイル]



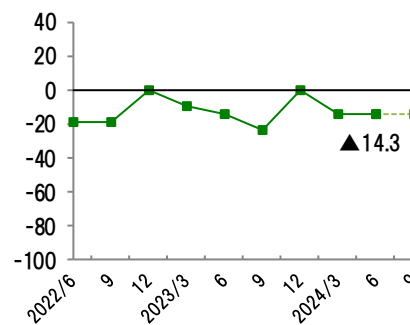
業況DIの推移 [電磁器]



業況DIの推移 [ファインセラミックス]



業況DIの推移 [和飲食器]

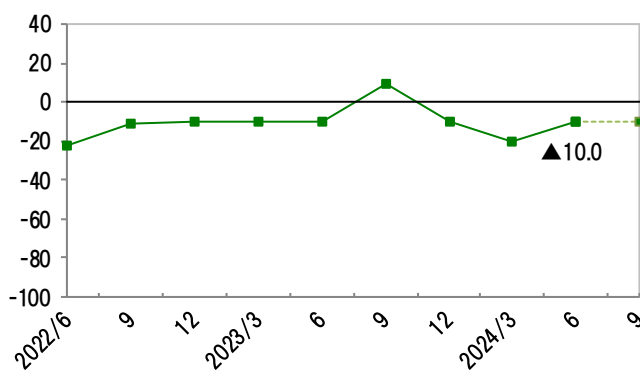


< その他製造業 >

業種	2024 年 4-6 月（今回）業況		2024 年 7-9 月の見通し	
珪砂		改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移		同水準の見通し
建築・土木・生コン		悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移		改善見通し
螺子		プラス圏で横ばい推移		悪化見通し

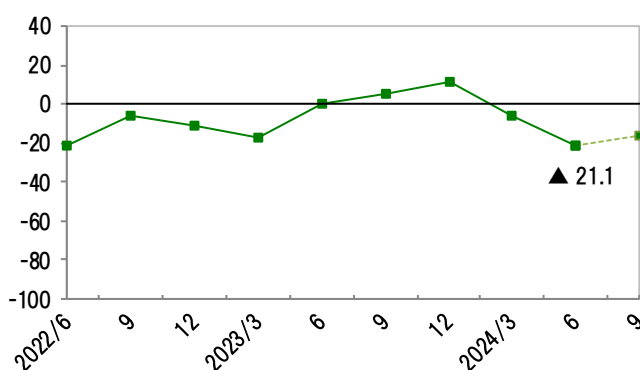
業況DIの推移

【珪砂製造業】



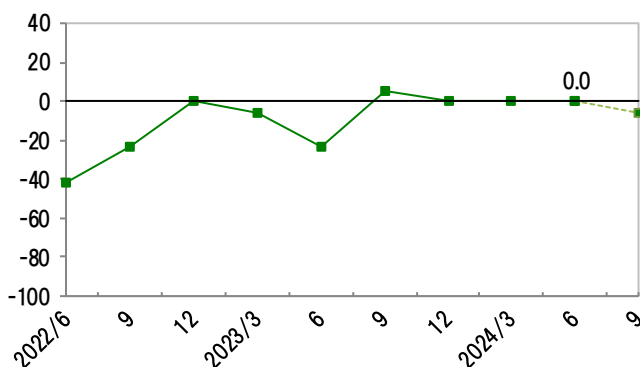
業況DIの推移

【建築・土木・生コン製造業】



業況DIの推移

【螺子製造業】

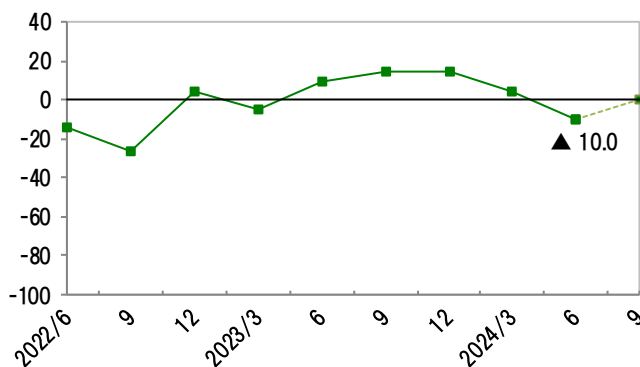


< その他卸売業 >

業種	2024 年 4-6 月（今回）業況		2024 年 7-9 月の見通し	
和飲食器		悪化傾向、マイナス圏に落ち込み		改善見通し
電設資材		悪化傾向、マイナス圏に落ち込み		改善見通し

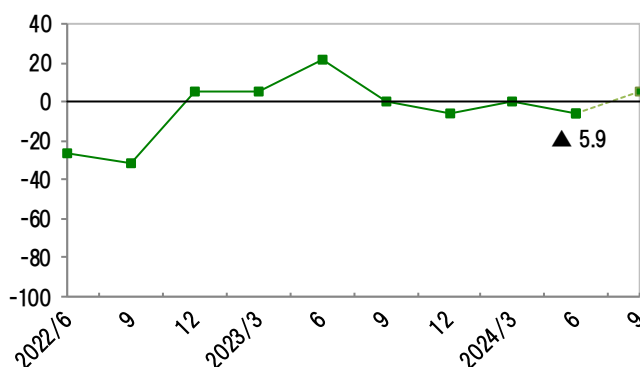
業況DIの推移

【和飲食器卸売業】



業況DIの推移

【電設資材卸売業】

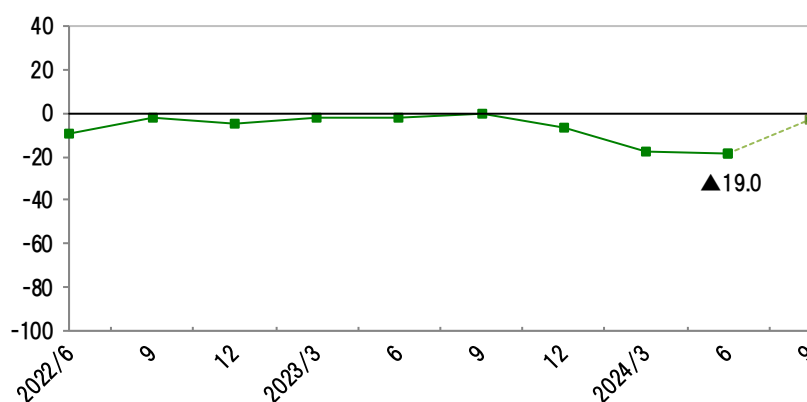


■ 名古屋地区

< 製造業 >

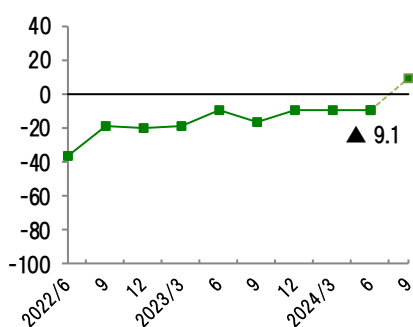
業種	2024 年 4-6 月（今回）業況		2024 年 7-9 月の見通し	
製造業全体		1 業種において持ち直しの動きが見られたものの、悪化幅が拡大した業種があったことから、業況感はわずかに悪化し前回調査に続きマイナス圏で推移した。		改善見通し
繊維製品		マイナス圏で横ばい推移		改善見通し
機械部品		悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移		改善見通し
紙加工品		改善傾向ながら、前回調査に続きマイナス圏で推移		同水準の見通し

業況DIの推移 [製造業]

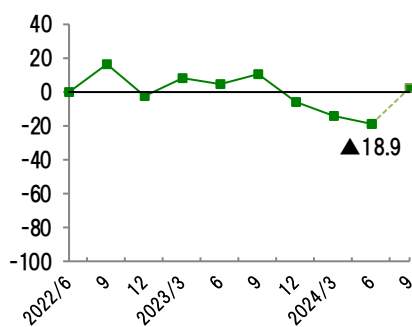


< 製造業の業種別 DI >

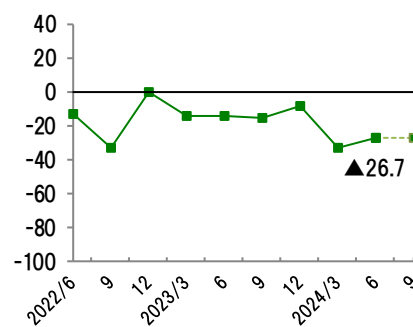
業況DIの推移 [繊維製品]



業況DIの推移 [機械部品]

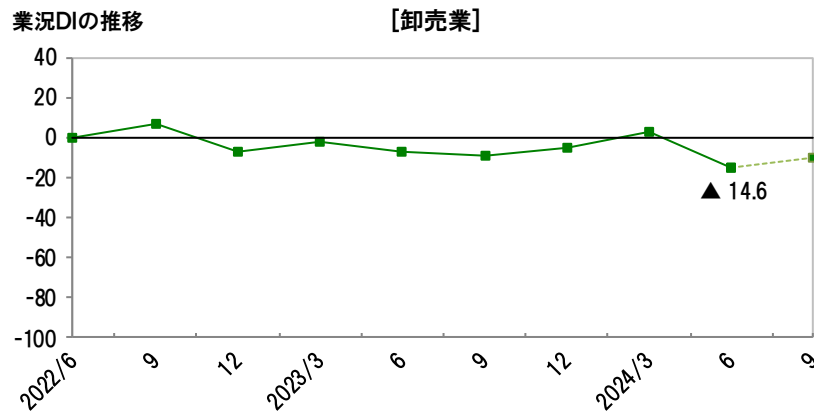


業況DIの推移 [紙加工品]

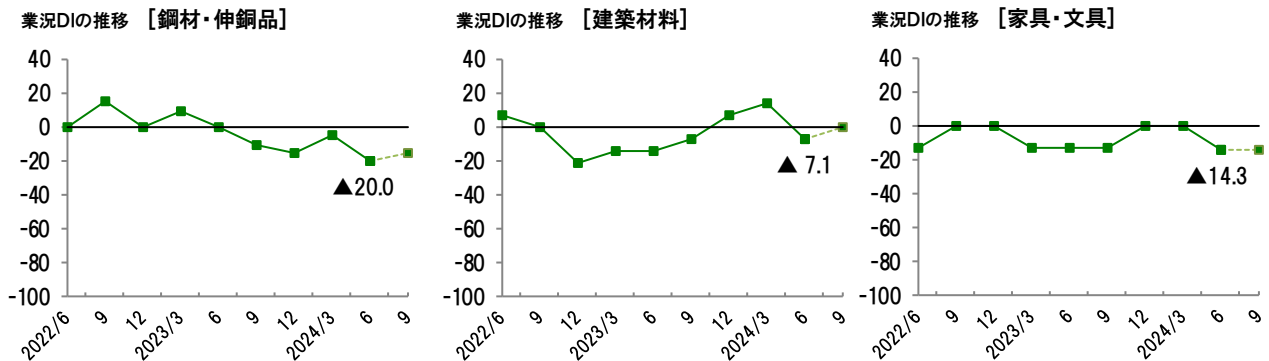


< 卸 売 業 >

業種	2024 年 4-6 月（今回）業況	2024 年 7-9 月の見通し
卸売業全体	すべての業種において悪化の動きが見られたことから、全体の業況感も悪化傾向が強まりプラス圏からマイナス圏に落ち込んだ。	改善見通し
鋼材・伸銅品	悪化傾向、前回調査に続きマイナス圏で推移	改善見通し
建築材料	悪化傾向、マイナス圏に落ち込み	改善見通し
家具・文具	悪化傾向、マイナス圏に落ち込み	同水準の見通し

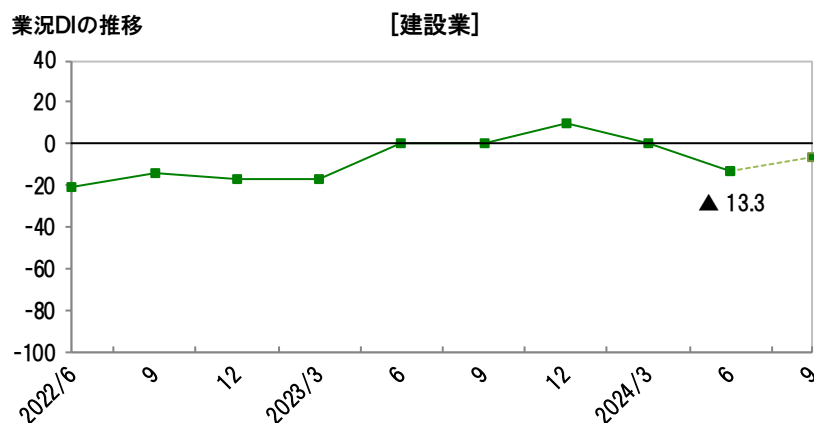


< 卸売業の業種別 D I >



< 建 設 業 >

業種	2024 年 4-6 月（今回）業況	2024 年 7-9 月の見通し
建設業	悪化傾向、マイナス圏に落ち込み	改善見通し



■ 瀬戸・尾張旭地区

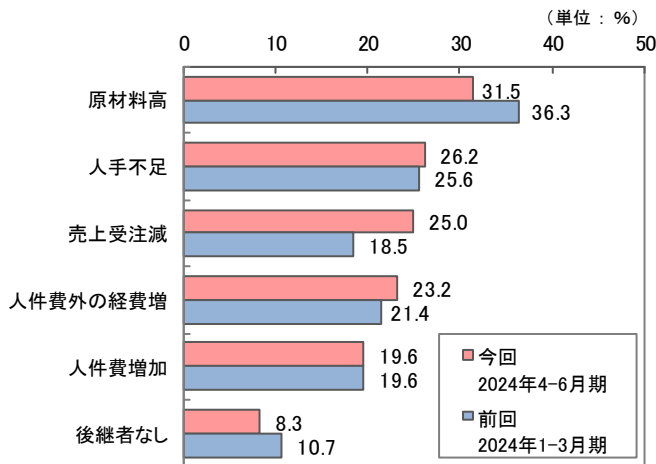
＜経営上の問題点＞

「原材料高」が31.5%と最も高く、「人手不足(26.2%)」「売上受注減(25.0%)」と続いた。前回調査と比較すると、「原材料高」の回答割合は、4.8ポイント減少したものの、「売上受注減」が6.5ポイント上昇した。

＜設備投資の動き＞

「実施あり」は6.5%（前回比+1.7ポイント）と前回の実績を上回った。今後3か月間の見通しについて、「実施予定あり」は7.7%（今回比+1.2ポイント）の予想となった。

＜経営上の問題点＞



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

＜設備投資の動き＞

(単位: %)

	前回 2024年 1-3月期	今回 2024年 4-6月期	見通し 2024年 7-9月期
実施あり	4.8	6.5	7.7
土地	12.5	9.1	15.4
建物	25.0	18.2	30.8
機械の新設	25.0	18.2	30.8
機械の更改	50.0	45.5	30.8
その他	0.0	9.1	7.7
実施なし	95.2	93.5	92.3

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

■ 名古屋地区

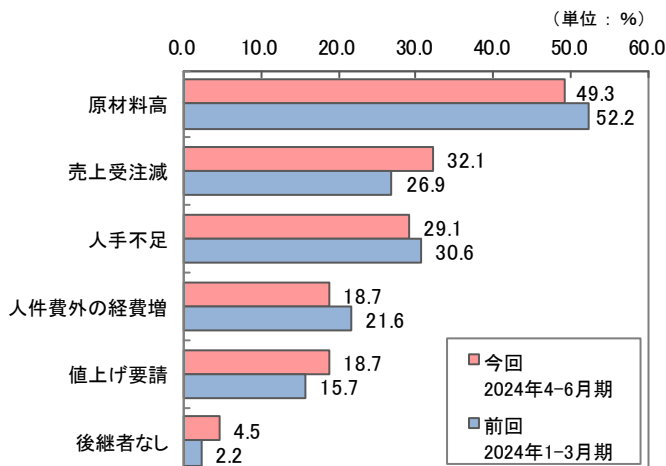
＜経営上の問題点＞

「原材料高」が49.3%と最も高く、「売上受注減(32.1%)」「人手不足(29.1%)」と続いた。前回調査と比較すると、「売上受注減」で5.2ポイント、「値上げ要請」で3.0ポイント回答割合は上昇した。

＜設備投資の動き＞

「実施あり」は6.0%（前回比△1.5ポイント）と前回の実績を下回った。今後3か月間の見通しについて、「実施予定あり」は8.2%（今回比+2.2ポイント）の予想となった。

＜経営上の問題点＞



※数字は有効回答数に占める割合で1企業が3項目まで回答

＜設備投資の動き＞

(単位: %)

	前回 2024年 1-3月期	今回 2024年 4-6月期	見通し 2024年 7-9月期
実施あり	7.5	6.0	8.2
土地	10.0	0.0	18.2
建物	20.0	25.0	9.1
機械の新設	50.0	37.5	54.5
機械の更改	40.0	37.5	36.4
その他	0.0	0.0	0.0
実施なし	92.5	94.0	91.8

※内訳の数字は「実施あり」に占める割合で1企業が複数回答あり

【 特 別 調 査 】
中小企業における災害等への対応について

能登半島地震は広い範囲にさまざまな影響をもたらした。地震に加え、気象災害の備えなど、災害等に対する事前対策は重要になっている。そこで今回は、中小企業における災害等への対応についてアンケートを行った。

＜調査対象先＞ 当金庫取引先 302 社
愛知県 726 社 全 国 13,220 社（愛知県、全国は信金中央金庫の調査によるもの）

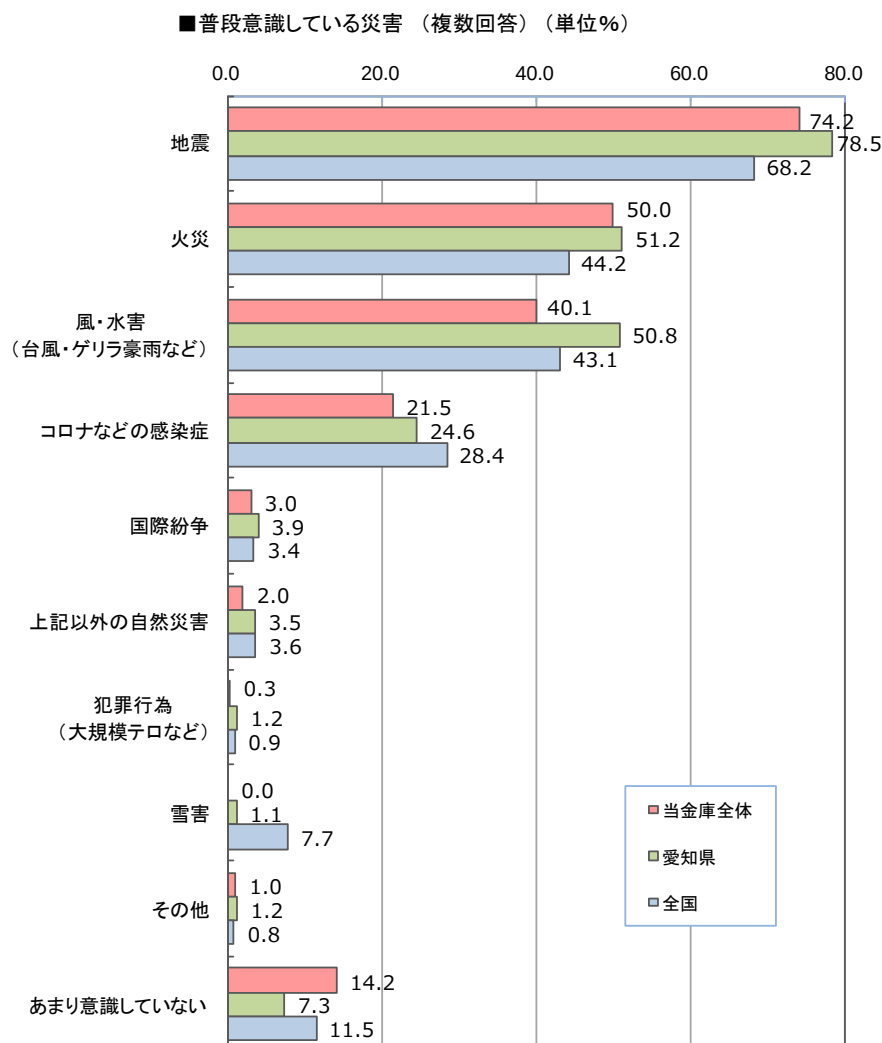
1. 普段意識している災害（複数回答）

■ 当金庫全体

- ・普段意識している災害について、「地震」との回答割合が 74.2%と最も高く、「火災」が 50.0%、「風・水害（台風・ゲリラ豪雨など）」が 40.1%と続いた。
- ・一方、「あまり意識していない」は 14.2%となった。

■ 愛知県・全国

- ・普段意識している災害について、「地震」との回答割合が愛知県 78.5%、全国 68.2%と、当金庫全体と同様に最も高く、「火災」が愛知県 51.2%、全国 44.2%、「風・水害（台風・ゲリラ豪雨など）」が愛知県 50.8%、全国 43.1%と続いた。



2. 災害への備えの自己評価と、実際に災害にあった際のそれまでの備え

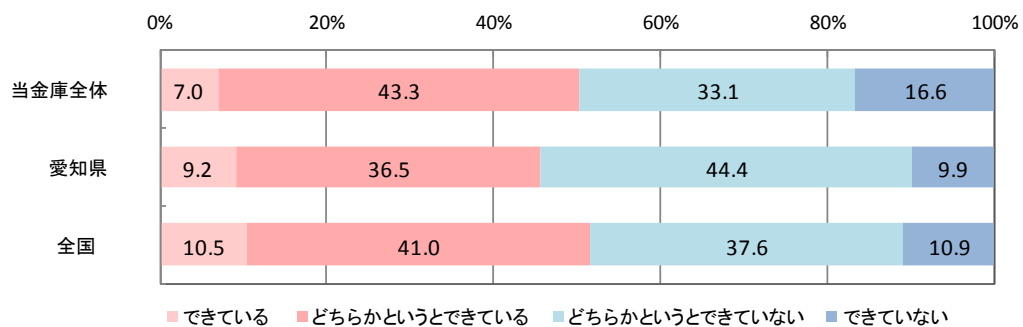
■当金庫全体

- ・災害への備えの自己評価について、「できている(できている+どちらかというのでできている)」との回答割合は 50.3%、「できていない(できていない+どちらかというのでできていない)」は 49.7%と、自己評価はほぼ半々に分かれる結果となった。
- ・実際に災害にあった際のそれまでの備えについては、「できていた(できていた+どちらかというのでできていた)」との回答割合は 26.5%、「できていなかった(できていなかった+どちらかというのでできていなかった)」は 33.8%であり、備えができていなかったとの回答割合が上回った。

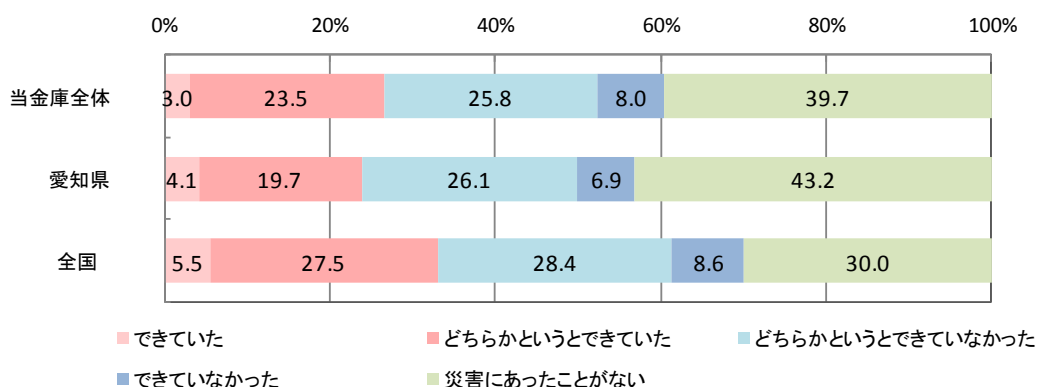
■愛知県・全国

- ・災害への備えの自己評価について、「できている(できている+どちらかというのでできている)」との回答割合は愛知県 45.7%、全国 51.5%、「できていない(できていない+どちらかというのでできていない)」は愛知県 54.3%、全国 48.5%と、愛知県で「できている(できている+どちらかというのでできている)」との回答割合が低い結果となった。
- ・実際に災害にあった際のそれまでの備えについては、「できていた(できていた+どちらかというのでできていた)」との回答割合は愛知県 23.8%、全国 33.0%、「できていなかった(できていなかった+どちらかというのでできていなかった)」は愛知県 33.0%、全国 37.0%であり、当金庫全体と同様、備えができていなかったとの回答割合が上回った。

■災害への備えの自己評価



■実際に災害にあった際のそれまでの備え



3. 事業継続にかかる保険の加入状況

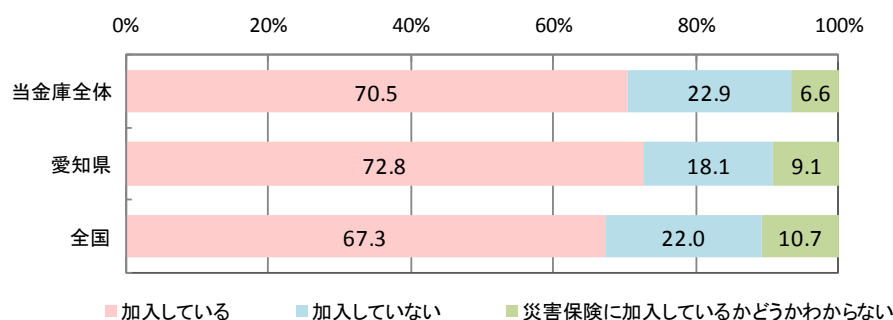
■当金庫全体

- ・事業継続にかかる保険について、約7割が「加入している」との回答結果となった。
加入している保険内容については、「財産補償のみ加入」が 35.1%と最も高く、「財産補償、休業補償の両方に加入」が 34.7%と続いた。一方で「休業補償のみ加入」は 0.7%と低い回答割合であった。
- ・事業継続にかかる保険について、「加入していない」との回答割合は 22.9%であった。
加入していない理由については、「保険料が高い」が 9.6%と最も高く、「自社には必要ない(災害時の損失額が低いなど)」が 6.3%、「災害保険についてよくわからない」が 5.0%と続いた。

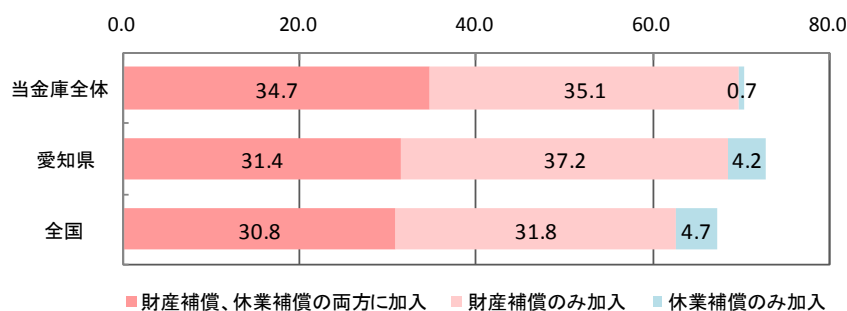
■愛知県・全国

- ・事業継続にかかる保険について、「加入している」は、愛知県 72.8%、全国 67.3%と、当金庫全体同様、約7割が「加入している」との回答結果となった。
加入している保険内容については、当金庫全体同様、「財産補償のみ加入」が愛知県 37.2%、全国 31.8%と最も高く、「財産補償、休業補償の両方に加入」が愛知県 31.4%、全国 30.8%と続いた。
- ・加入していない理由については、愛知県は「自社には必要ない(災害時の損失額が低いなど)」が 6.0%と最も高く、「災害保険についてよくわからない」が 5.3%と続いた。一方全国では、「保険料が高い」が 7.2%と最も高く、「災害保険についてよくわからない」が 7.0%と続いた。
愛知県では、当金庫全体・全国と比較すると「保険料が高い」との回答割合は低い結果であった。

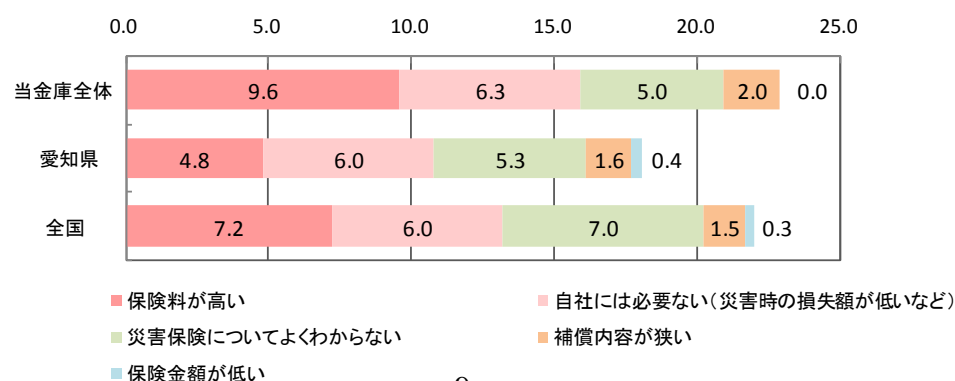
■事業継続にかかる保険の加入状況



■加入している保険内容 (単位%)



■加入していない理由 (単位%)



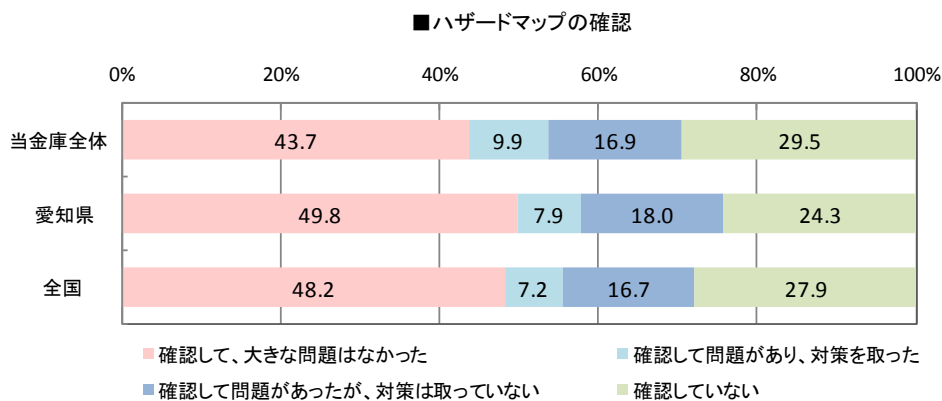
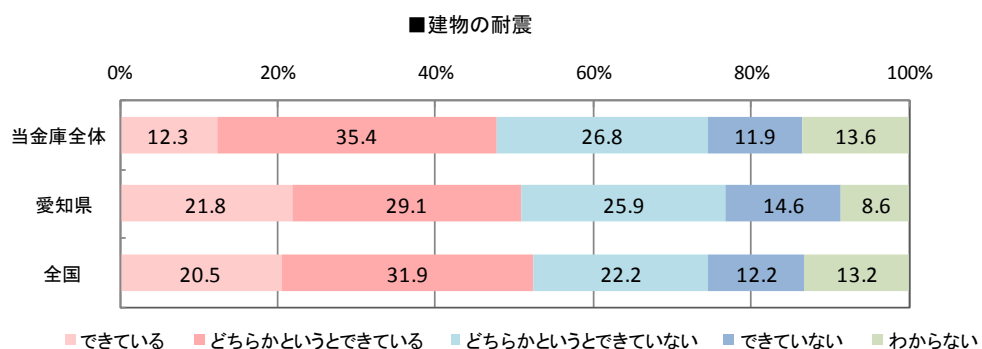
4. 建物の耐震状況とハザードマップの確認状況

■当金庫全体

- ・建物の耐震について、「できている(できている+どちらかというときできている)」との回答割合は47.7%、「できていない(できていない+どちらかというときできていない)」は38.7%と、「できている」との回答割合が上回ったものの、「できていない」との回答割合も4割程度ある結果となった。
- ・所在地周辺のハザードマップの確認について、「確認した」との回答割合は70.5%に留まった。
確認したと回答した中で、「問題があった」との回答割合は26.8%、うち「対策を取っていない」が16.9%あり、対策が進んでいないことが見て取れる結果となった。

■愛知県・全国

- ・建物の耐震について、「できている(できている+どちらかというときできている)」との回答割合は愛知県50.9%、全国52.4%と、当金庫全体を上回る水準であった。
- ・所在地周辺のハザードマップの確認についても、「確認した」との回答割合は愛知県75.7%、全国72.1%と当金庫全体を上回る水準であった。



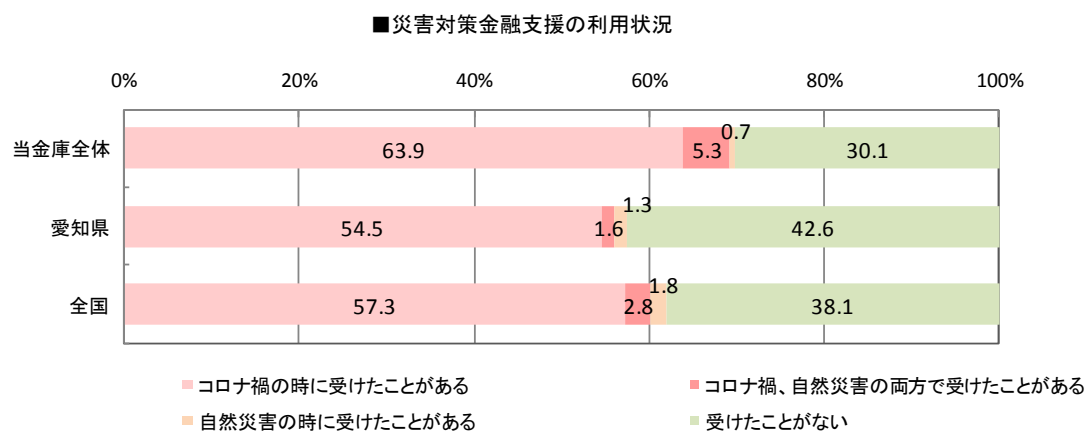
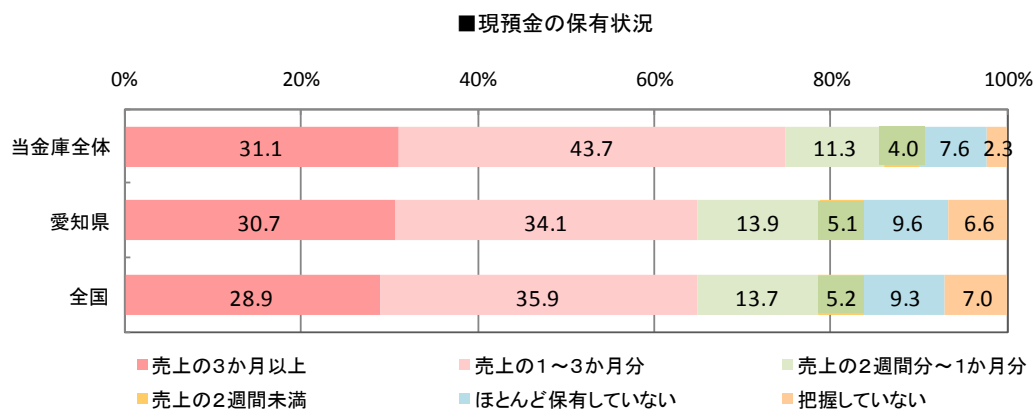
5. 現預金の保有状況と災害対策金融支援の利用状況

■当金庫全体

- ・現預金の保有状況について、中小企業庁の「BCP策定基準」で推奨されている「売上の1か月分以上」との回答割合は74.8%であった。一方、「ほとんど保有していない」との回答割合は7.6%であった。
- ・災害対策金融支援の利用状況について、「利用したことがある」との回答割合は69.9%であり、「コロナ禍」の際の利用が大部分を占める結果となった。

■愛知県・全国

- ・現預金の保有状況について、「売上の1か月分以上」との回答割合は愛知県・全国ともに64.8%と、1か月分以上の現預金の保有状況は当金庫全体が上回る結果となった。
- ・災害対策金融支援の利用状況について、「利用したことがある」との回答割合は愛知県 57.4%、全国 61.9%であり、当金庫全体同様、多くは「コロナ禍」の際の利用であった。



企 業 景 気 動 向 調 査 No.185

愛知県瀬戸市東横山町 119 番地の 1

<https://www.setoshin.co.jp>



総合企画部

2024 年 7 月発行